

先日、娘の通う小学校の副校長先生に

「体育の時に、ほとんどの子供がマスクをしているという問題」を改善して頂くようお願いしたところ、数日で学校の体育の授業の様子が大きく変化しました。

それまでは体育の時の先生の声かけは「マスクをとってもいいですよ」という軽い感じのものでしたが、お願いをしに行ったあとは、「マスクは必ず外してください。どうしても外したくない人は、先生に相談に来てください」というものになりました。それによって、ほとんどの子供がマスクを外すようになったそうです。

私がお願いをした時のことが、どなたかの参考になればと思い、気をつけたことをここにまとめたいと思います。

お願いの内容は二つ。とてもシンプルです。

一つ目は

「運動時にマスクをすることは、死亡例もあるような命に関わる危険なことだと子供たちが理解していないことを心配に思っています。マスクの危険性を子供たちがしっかりと理解できるように説明してもらえないでしょうか」

と、いうもの。

「先生方は、声をかけてマスクを外させる努力をしている。

でも、残念ながら子供たちはその理由を理解していないと思う。

そうでなければ、運動をする時にみんながマスクをするはずがないから」

というメッセージです。

二つ目は

「マスクの有害性や運動時の危険性について調べて頂き、職員会議でその内容を共有して頂くなどして、運動時のマスクは命に関わる危険なことだということを皆さんで一度きちんと確認して頂くことはできないでしょうか」

というもの。

「先生方は忙しい。マスク以外に考えることがいっぱいあって大変に違いありません。

でも、運動時のマスクの問題は、後回しにしてはいけないこと。子供たちの命を守るための最優先事項だということをはっきり認識して欲しい」

というメッセージです。

このお願いのポイントは二つ。

一つ目は「断られない内容」にするということ。

「マスクを外させてください」とお願いすると、「いろいろなご家庭の考えがあるので」と言われてしまうので、「マスクをするのか、しないのかということについて、子供たちが適切な判断ができるような指導をして欲しい」という意図にしました。

二つ目は「反対意見が出にくい内容」にするということ。

「運動時のマスク着用は死亡事例もある危険なこと」というところまでは多数の人が賛成できる内容だと思ったので、「それをみんなでしっかりと認識できるようにして欲しい」ということに対しては、反対意見が出にくいと考えました。

反対意見が出にくいものは、学校側も対応しやすいと考えました。

交渉の方法で気がつけたことは

「敵だと思われないようにすること。」です。

論破しにきたと思われないように、マスクの有害性の資料などは持参しませんでした。話の最後に、自分のもつ知識や経験から「私個人としては、マスクは子供たちの発達に害があると考えている」という旨は伝えましたが、マスクの是非について問うようなことはしませんでした。

そして「運動時のマスクの着用」については、社会的な問題として取り扱うことなく、この学校の問題として取り扱うようにしました。

先生方の事情に配慮する気持ちがあることを伝えるために

先生方のご苦勞に感謝を述べた上でお願いをし、

「お願い」についても、学校の都合の中で、可能な範囲でお願いしますという伝え方をしました。

とにかく私は敵ではなく、学校を応援するつもりで来たという気持ちを伝えるようにしました。先生のお話では、マスクに賛成する保護者と反対する保護者の意見が両方入ってくるとのことで、先生もご苦勞されているようでした。

みんなで力を合わせて、この世の中の難しい状況を乗り越えて行きましょうという気持ちで話をしたところ、話し合いの終わりにはとても良い空気になり

その後、副校長先生は私のお願いした内容をすぐに、校長先生に伝えてくださったようです。

本当は、登下校のマスクのことも言いたかったのですが、そこはグッと我慢して
まずは、お願いを受け取ってもらうことを最優先しました。
まず体育の時にマスクを外すことで、子供たちに「マスクをとることの
抵抗感をなくさせる」、そして、「外した時の爽快感を感じることで、マスクを取
りたいと思うようにしていく」ということが狙えればと思いました。

先生にお渡ししたメモは次のようなものです。

メモを持参した目的は、簡潔に説明するためと、冷静に話をするためです。

いつもお世話になりありがとうございます。

この件については、クラス内のことではなく、学校全体のこととしてお願いしたい内容であるため、〇〇先生にお伝えさせていただきます。

【お願いしたいこと】

「運動時のマスク着用は、過去に死亡例もあり、命の危険に関わることである」

ということ、先生方で真剣に考えて頂き、

それは、「命を守るためにとても大事なこと」であるということをお子達に

繰り返し説明して頂きたい。

ù 問題に思うこと

①子供たちは、マスク着用の危険性や、体育の時に外して良いということをお先生方が思われるほど理解していない様子であること。

体育の時間にマスクをとる子が少ないので、娘はマスクをとることにとても勇気がいるそうです。

苦しくてマスクをずらしていると、それ自体を周りの子に指摘されることもあるそうで、言い返す強さがないとマスクを取れないこともあるようです。

暑い日に100メートル走を走る時にも、声かけがないか、あっても「外してもいいですよ」という消極的な声かけがあるだけなのでそこから、子供たちがマスク着用の危険性を理解するのは難しいのではないのでしょうか。

②先生方がマスクについて言及しないで、運動をさせることがあるということ、

先生方は必ずしもいつも声をかけてくださるわけではないので、声かけがないときは、外したくても外せないそうです。

言わない時もあるとすると、子供たちは「どちらでも良い」と認識するのではないのでしょうか。

ù お願いしたいこと

- 運動時のマスク着用の危険について、すべての先生がきちんと認識しているのが確認して頂きたい。
- 子供たちにも、運動時のマスクの着用が危険だとわかるように声をかけて頂きたい。
「運動をする時は危ないので、先生も外すので、みんなも外しましょう」という声かけをしていただくなど。
- 子供たちが、運動をする時はマスクをするのは危ないという認識を持つまで何回も声をかけて頂きたい。

それぞれのお子さんや、ご家庭のご希望もあると思いますが
マスク着用での運動は、死亡例もある危険なことですので
ご対応いただくようお願いしたいと思います。